

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生きがいの探求」「生きがいの創造」を基本理念に事業所内では、家庭的な雰囲気を大切にし、入居者の自立支援や楽しみを持って過ごせるようカンファレンスで話し合い意識を高めている。	医療法人や社会福祉法人を含むグループ全体の基本理念にそったケアを心がけ、日々話し合い、入居者の自立支援に取り組んでいる。	職員の思い等を取り入れた事業所独自の理念を作製し、実践で活かしていく事も必要ではないかと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に一回の夏祭りでは、地域の方との交流が持て、清掃活動への参加や近隣住民の方と出会うと挨拶や会話をし積極的に接している。	地域の子供みこしを見物したり、小学生の訪問を受け入れたり、一斉清掃に参加するなどして地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族からの相談や入居相談等で助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老人クラブ会長に出席いただき、施設を客観的に見て意見をいただいている。	運営推進会議には、町内会長や老人クラブ会長等が出席して、定期的に開催されている。	民生委員や愛育委員など、幅広い立場の人たちが参加出来るような会議を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請関係のものや介護報酬の解釈についての連絡、問い合わせはしている。	電話が主であるが、市の担当職員に介護報酬などに関する問い合わせをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。玄関の施錠は、夜間のみとし、開放的な空間づくりを意識している。	月1回、勉強会やミーティングを実施し、職員の注意を喚起し、身体拘束防止に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の介護の中で、お互いに注意を促している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等の実践はなし、また家族等からの相談も今のところないが、玄関にパンフレットを置き、相談に応じれるよう準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退居時、料金改定等の際に書面にて入居者又は家族に対して説明を行い、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来た時に日常の様子を伝えるとともに、意見・要望を聞くように気をつけている。また、意見・要望がある時は、会議で話し合いサービスの向上を図るように意識している。	利用者本位の運営を心がけ、3ヶ月毎に介護記録の見直しをして、日々のケアに活かしている。利用者のご家族に、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の会議、年に1回の個人面談を行い、職員の意見を聞くようにしている。職員から出た意見に関しては、すぐに反映させるよう取り組んでいる。	月1回のリーダー会議で話し合ったり、職員と個別の面談を行って意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員本人の希望がや能力向上があれば配置転換や役職を与える等を行っている。また、上司が評価する機会を半年に1回設けており、勤務態度や貢献度に応じた給与または賞与を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の施設内勉強会への参加を促したり、現場での介護の指導を行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の行事(夏祭、秋祭り、忘年会、旅行等)の参加を積極的に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してからしばらくは、職員が1人側につくようにし、話に耳を傾けるようにしている。また、本人の要望がある時は、出来る限り聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の要望を聞くように努めている。面会時もしくは、変わったことがある時は連絡するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前と入居後にカンファレンスを行い、入居者・家族の要望を取り入れたサービス内容にしている。また、側につくことで必要とする支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と洗濯たたみや食事の盛り付け等を一緒にを行い介護が一方的にならないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会、夏祭りといった行事に参加してもらえるよう呼びかけている。また、面会に来てもらえるよう声かけも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所では近隣のへの外出や外食を行うようにしている。また家族にも外出等の協力をしてもらい、関係作りに努めている。	友達や知人に気軽に訪問してもらえるよう、電話や手紙での連絡をとりもつなど、継続的な交流が出来るよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はデイルームに出てもらいレク、体操等に参加してもらったり、席を固定せずに様々な組み合わせで座ってもらうことで入居者同士の関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も他のサービス利用や他施設利用などの相談に応じている。またグループ内での職員間での情報交換も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の普段の会話や行動等を観察し、3カ月に1回の介護サービス計画書の見直しを行っている。また、年1回ケアチェックを行い、状態の変化の把握に努めている。	日々の関わりの中で、入居者の言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認をしながら把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前か入居時に本人や家族にバックグラウンドをとっている。また、昔話を聞くなどし、ケアに生かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のカンファレンスやケアプランの見直し時に心身の状況等の確認や把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に作成したケアプランの確認と説明を行い、要望や修正点の有無を聞いている。	ご家族に介護計画を説明し、その際、要望等を聴いている。また、月1回カンファレンスを行い、職員の意見等も取り入れながら介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録の中に気づいたこと、実践した事等を記録し、職員間の申し送りの中で伝えたり、申し送りノートを活用するなどして介護計画に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望を尋ねたり、要望が入居者側から出れば、可能なことはその都度対応している。その他のことは、行事等を実施して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の医療機関や小中学校、高校、ボランティア団体等を把握し、その都度交流も持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族よりかかりつけ医を確認している。また、歯科や眼科についても地域内で受診できるようにしている。	提携医療機関の医師に訪問診療に来てもらっている。また、本人やご家族が希望するかかりつけ医の診療も受ける事ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回のユニット会議の時に勉強会をしたり、入居者の対応の相談を行ったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、面会を行い、本人の状態等を把握できるようにしている。また入院時及び退院時に先方の看護師等と情報交換し円滑にすすむようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療等の方向や看取りについて説明をし、家族と話合っている。また、そのことを医師等にも伝え方針を決めている。	終末期における対応指針を作成し、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の対応マニュアルを活用したり、連絡方法を決めたりし職員に周知している。病気の時の対応は、その都度、看護師に指導してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、避難経路や避難方法等を実践している。隣の施設にも協力依頼している。	年2回、消防署員立ち会いのもと、入居者も参加して避難訓練を実施している。	夜間を想定した避難訓練に期待します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の自尊心や羞恥心に対する配慮をした介護を心がけている。	入居者一人ひとりの暮らし方や生活のリズムを把握して優しく言葉をかけ、トイレ誘導の際など、周囲に気を配りながら介助をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り職員が入居者の側に行き、話が出来るよう心がけている。出された要望には日々の生活の中で反映できるようカンファレンス、会議等で検討している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が部屋でテレビを観たい、横になりたいといった要望に沿った援助をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服えお選んだり整髪の援助をしたり、身だしなみに気を付けた援助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の配慮や盛り付けを手伝ってもらう等、楽しく食事ができるように支援している。	節分やひな祭りなどの年間行事に合わせて、旬の食材を用いている。季節を感じられる献立を作成することで、入居者の食欲をかき立てる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、お茶だけでなく、コーヒー、紅茶等を出すなどし支援している。 食事は入居者それぞれの形態に合うような対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人一人について、口腔ケアを行っている。介助が必要でない方は、見守りをしている。 毎晩、義歯を預かり消毒している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期誘導を行うとともに、適宜の誘導を行っている。トイレの訴えが出来ない方に関しては、トイレサインを見逃さない様に気を付けている。	職員は入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、自立を促す言葉かけや支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の機会を増やすなどして対応している。必要な方には、内服薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は予め決めているが、順番は入居者の要望に沿っている。また、入居者の希望で入浴日の変更も行っている。	週2回、午後入浴ができるように工夫している。また、希望があれば毎日でも(また、夜間でも)入浴できる体制を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、本人のペースに合わせている。自ら訴えられない方は、職員側から声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より薬の追加や変更が申し送られ、その際に薬の内容や副作用の説明が行われる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個々のできることを行ってもらうことで役割を感じてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で外出あるいは外泊を行っている。	家族の協力を得て、敬老会などの行事に出かけたり、気候のよい日は敷地内での散歩を楽しんでもらっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、本人でお金を所持している方もおられる。基本的には、事務所で預かっており、本人や家族の希望で使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の要望があれば事務所の電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、毎日の掃除で清潔を保つようにしている。室温、湿度調整を行い、居心地の良い空間作りに気をつけている。花、壁面、写真を飾る等し季節感や楽しく過ごせるよう考えている。	居間は広く、天窓からの外光もあって明るい。隅々まで掃除が行き届いている。温度や湿度が快適に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファを設置し、一人で過ごせるようにしたり、他の入居者と会話できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、家族の協力のもと使い慣れたものを持ってきてもらうようにしている。また、家族との写真を飾るようにしている。	家族の写真、使い慣れた枕、日用品、あるいは仏壇等も持ち込まれており、入居者は安心して過ごしているようである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の配置は、本人の残存機能を加味したり、安全を配慮し行っている。共用空間においても安全を考慮し他者とコミュニケーションが取りやすいように気を付けている。		